

上演

11



楽屋インタビュー

1 本番を終えて、どんな気分ですか？

部員全員が全力を出し切ることができました。時間の過ぎるのもあっというまで、でもそれぐらいこの作品に一生懸命寄り添い、自分たちなりに演じられた結果なんだなと感じています。

2 本番中ハプニング

扉が自分の意志で閉まってしまったこと。

3 思い出に残った台詞

ガーン... キャー!!!

4 大会期間中、部活内で流行ったワード・行為

クロミちゃんのティッシュ

5 見てくれたお客さんに向けて

この劇を見て震災に興味をもった方はいるでしょうか？あの日と向き合い、前を向いて生きていこうと思っていただけたなら幸いです。



お客さんインタビュー

●震災に関するコンテンツは多々見てきたが、記憶が浅いであろう高校生たちが、ここまで震災を生々しく表現できることに驚いた。

●鬼気迫る演技(叫びや不安)によって恐怖感がこちらにも伝わってくるような演技力に加え、二つの視点によって物語をたどることにより、前半ではわからなかったことが後半では明らかになるような感覚が面白く感じた。



運営委員が観た!
この劇の感想

●キャストの方々の演技力が高過ぎて、本音をぶつけてしまう言い合いのシーンや、パニックになってしまうシーンの緊迫感が客席に伝わってきました。まるでそこには津波が来ているかのような演技や演出で苦しい気持ちになり、目が離せなかったです。葉子がトラウマを克服し、語り部として生きていく強さにとても感動しました。 担当：外山(宮城学院)

●震災がテーマの上演で臨場感が伝わってきた。地震で起きた事が役者の表情や照明などにより伝わり、観客も震災の恐怖を感じることが出来た。同じ曲が、慎太郎のボケと静江の怒る所、最後に5人がまとまる所に使われ、特に静江の場面は、テンションが上がる曲なのに怒って泣くという不自然さが良いなと感じた。鳥肌が立つ良い作品だった。 担当：栗田(塩釜)